2008 年 6 月 16 日
株式会社　みずほ銀行

【みずほダイレクトのセキュリティ強化策】「リスクベース認証」開始について

株式会社みずほ銀行（頭取 杉山清次）は、個人のお客さま向けサービスである『みずほダイレクト[インターネットバンキング]』をより安心してご利用いただけるよう、邦銀のインターネットバンキングサービスでは初となる「リスクベース認証」によるログイン認証強化を開始いたしました。

１．「リスクベース認証」とは

「リスクベース認証」とは、お客さまが普段利用するインターネットバンキングのご利用環境（例：インターネットプロバイダーのＩＰアドレス情報、パソコンの設定情報など）を総合的に分析・リスク計量するリアルタイムで行うモニタリングの一種です。不正利用の懸念があるアクセスを検知した場合には「合言葉」による追加認証を行い、当該取引がご本人のご利用であることを再度確認する、というお客さまの操作性にも配慮した新しい認証方式です。

これにより、万が一、お客さまがみずほダイレクトのお客さま番号（ＩＤ）やパスワードを第三者に知られ、当該第三者がお客さまの普段利用されている環境とは異なる環境からアクセスしてきた場合には、追加で認証を行うこととなりますので、第三者による不正利用防止に有効な対策となります。

２．サービス対象者の順次拡大について

2008 年 6 月 15 日（ 日）より、みずほダイレクトのお客さま番号（ＩＤ）が「１」または「９」で始まるお客さまを対象に、「リスクベース認証」を開始しました。その他のお客さまについても、本年 8 月までに順次開始する予定です。

なお、「リスクベース認証」の開始と同時に、お客さまに事前にご登録いただいた画像を、インターネットバンキングのログインパスワード入力画面に表示し、アクセスいただいたサイトが正規のサイトであることをご確認いただく機能も追加いたします。

みずほ銀行では、これまでもみずほダイレクトを安心してお使いいただけるよう種々の取り組みを行ってまいりましたが、お客さまの大切な預金を安全にお預りするべく、今後も一層のセキュリティ強化に取り組んでまいります。

以　上

〔みずほダイレクト[インターネットバンキング]セキュリティ向上に関する主な取り組み〕

実施時期	具体的内容
2005 年 8 月	「ログインパスワード」入力時のソフトウェアキーボード利用を開始。また、振込取引用「暗証番号」を取引の都度、当行が指定する方式へ変更。
2006 年 1 月	ログイン時のパスワードについて、お客さまが忘れにくく、かつ、他人に推測されにくい設定とできるよう、桁数を 32 桁に拡大。
2007 年 2 月	フィッシング詐欺等のインターネット上の金融犯罪や、注意点・対策を分かり易く解説した「セキュリティガイド　インターネットバンキング編」をＨＰ上に掲載。
2007 年 6 月	RSA セキュリティ株式会社が提供する「RSA FraudAction（アールエスエー・フォロードアクション）」を導入し、フィッシングサイトを短時間で閉鎖できる体制を構築。
2007 年 9 月	不正払い出しの被害を限定的にする、「総合口座貸越選択サービス」の取り扱いを開始。
2008 年 3 月	取引毎に異なる「使い捨て方式」のパスワードである「ワンタイムパスワード」の取り扱いを開始。
2008 年 3 月	フィッシングサイト対策として、正当なサイトかどうかを視覚的にかつ容易に認識し易くする EV SSL 証明書を導入。
2008 年 4 月	みずほダイレクト規定を改定し、不正利用被害の補償範囲を拡大。
2008 年 6 月（本件）	総合的な「インターネットバンキングのご利用環境」で認証する「リスクベース認証」を開始。
2008 年 6 月	正当なサイトかどうかをより明確に認識できるよう、お客さまご自身で登録いただく画像をログイン前に表示する機能を導入。